



## 小さな事件

ある日、私は電車に乗って本を読んでいた。お昼を少し回ったところで電車はすいていて、ほとんどの人がゆったりと座席に座っていました。いつもと変わらぬのどか午後のひとときです。そんな時、ある小さな事件が起こりました。

突然私の向かいに座っていた初老の男性が怒り出したのです。

「あんたっ、なんで黙ってるのっ！」

その男性は隣に座っている若い女性にすごい剣幕（けんまく）で詰め寄っています。私は最初、何が起こったのか全く分かりませんでした。

「はあ、なんですかあ」

女性も何が起こったか全くわからない様子です。見知らぬ男性から突然言いがかりをつけられたことに対して、げげんそうな顔で問い返しています。

「あんたっ、座りながら私の靴を踏んだでしょうがっ！」

男性は興奮気味に不満をあらわにして、語調にも表情にもありありと不満が表れています。

どうやら女性は座りながら隣の女性とおしゃべりに熱中していた拍子に、男性の靴を踏んでしまったらしいのです。ちょっとしたあやまちで、それほど大した事件ではないのですが、その失礼に対して一言「ごめんなさい、すみませんでした」というおわびの言葉があれば、それですべては何のこともなく解決していたのでしょうか。しかし、残念ながらその一言がなかった…。そのために男性はさらにいっそう怒って、語気を荒げているのです。

ところが、女性のほうも一歩も退（ひ）こうとはしません。

「そんなことぐらい、いいじゃないですか、たいしたことないじゃないですか。」

負けずに不満をあらわにしています。

「そうはいかないよっ、どうしてあんたは一言謝れないのっ！」

もうお互いに一歩も譲りません。しばらく二人とも鋭い目つきでにらみ合っていました。

私も何もできずにそっと様子をうかがっていると、やがて駅が近づいて女性が席を立ちあがりました。心配していた周りの乗客がやっとほんとと安心しかけた、その瞬間です。

「この、短気じじいっ！」

振り向きざまに女性が男性にそう言い放つと、さっと電車を降りて歩き去りました。

「なんだとっ！」

男性は顔を赤らめて、いっそう不満と怒りをあらわにしましたが、さすがに追いかけるまではしませんでした。

これで、小さな事件は終わりです。

みなさんはこの事件をどう思いますか？女性が最初に、ちょっとしたあやまりに気づいたとき「あっ、すみません」とほんの一言でもいうことができたなら、こんなにお互いがぎすぎすして衝突せずにすんだでしょう。また、最初の男性の伝え方にも、もう少しだけ穏やかさがあれば結果は違っていたかもしれません。お互いにちょっとした心遣いがあれば、こんなに気持ちを荒げることもなく、のんびりとあのまま隣り合って座っていられたらうにと、私はどこが寂しく感じました。

この小さな事件に欠けていたもののひとつ、それは「デリカシー」です。「デリカシー」というのは、「相手や周囲の状況に対する繊細で細やかな心遣い」のことです。

私たちは無人島で一人暮らしをしているわけではありません。多くの人が生活している社会の中では、周囲の人に対するこの「デリカシー」が必ず必要になります。

電車などの狭い空間の中に多くの人がいるときに、本人たちは気づいていないのか、大声で会話をしている人。せっせと化粧に夢中になっている人。映画を見ているときにスマホの画面を開く人。電車や部屋の出入り口にかたまって他の人の出入りをさまたげている人。教室や廊下を我が物顔で走り回っている人。

このように「デリカシー」が求められる場面で、周りの人のことを考えず、周囲の状況を理解せずに、自分のことしか考えていない人、自分のことしか見えていない人を目にすることがあります。これらの行為は直接法律に触れることはありませんが、周りの人を不愉快にさせます。いわゆるマナーやエチケットに反する行為のほとんどが、この「デリカシー」が欠けているか、足りないことが原因なのではないでしょうか。

自分のことに熱中しているときなどはついつい自分のことだけを考えて、周りのことに対する配慮を失いがちです。周囲への気遣いや心配りができなくなってきた結果、人間関係がぎくしゃくしてきます。君たちにも心当たりはありませんか？

三学期早々にはスキー移動教室も控えています。ひとりひとりのちょっとした心遣いで「デリカシー」に包まれた温かい集団を築きたいものですね。

#### □来週の予定

月/ 日(曜)	行事予定	備考
12/ 8(月)	三者面談	午前授業・給食あり
12/ 9(火)	三者面談終	午前授業・給食あり
12/10(水)	各種委員会	
12/11(木)	避難訓練 ヤギカフェ	
12/12(金)	オンラインドリル	⑤校時後下校、オンライン学活